



TITLE:

質疑應答

AUTHOR(S):

CITATION:

質疑應答. 地球 1931, 16(5): 400-400

ISSUE DATE:

1931-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183965>

RIGHT:

要するにソ聯邦品は特殊のものを除き一般に品質粗悪であるが、所謂ダンピング施行の目的が五ヶ年計畫に含まる各種商工業の施設に要する外國よりの材料購入代を外資吸收で償還すると同時に資本主義國の經濟を破壊せんとするにあるは一般識者の肯定する所である、ことに生産に當り一切の國內の資源を一手に收め國民として強制勞働に服せしめてゐるのであるから他國もこれに對抗するのに骨が折れることである當地貿易代理部はあらゆる高品を他國品に比し常に二割五分安に賣るといふのである。かうしたロシヤの進出に對する本邦の覺悟は出來てゐるかどうかといひたい。

質疑應答

問 河南省の周家口と漯河の胡麻。

答 河南の大平原に蔡澤縣から流れて出る賈魯河といふのがある。これは昔黃河の一支流であつた蕩蕩渠で、漢初の鴻溝といふものゝ跡であるが、史記河渠書にこの水運によつて宋鄭陳蔡曹衛と濟汝、淮泗、皆楚に會すとのべた通り、昔は中原水運の中軸であつたが、今日は昔程に水がないけれどもその地理的事情に變化がないから、この賈魯河と沙河の會點にある埠頭の周家口といふ所は、この平野の中心市場になつて人口二萬繁榮してゐる。民船は、年中通るが、夏期の増水期には、海船が通つて京漢線の郟城驛に連絡する、その間約一六〇支里である。河を挟んで北寨、南寨、西寨の三區より

成立し、附近には牛、馬、驢、鹽、山羊、綿羊等の飼養が盛であり、水運によつて安徽界の茶及絹糸の外農産には金針菜といふ名物を出し、また杞柳の籠をも集散する外に、胡麻の一大集散地である。ところがこゝを流れる沙河の上流は漯河ともいひ、西の方に鄆縣城下に達すると、そこに漯河といふ埠頭が出來てゐる。従前は左程でもなかつたが、京漢鐵道が出來てからこゝから、漢口への交通が開けたので、七月中旬、地方はまだ收穫期に入らない時に、一夜三百數十隻の雙船が、鐵橋下遙に低い河岸に連るといふ河港となつた、故に今日では胡麻の大集散地は、周家口でなくなつて漯河である。河南の胡麻は駐馬店、漯河、周家口、堰城、遂平、確山、明港等鐵道の沿線に集まつてくるので、それが漯河のやうに、河と鐵道交叉地であると取引が最も活潑になる。遂平、確山、明港のいづれも小さい民船の便のあるところである。淮水といふ河はその源流が低い山で、流が緩であるから、夏期増漲期になると餘程奥地まで運搬の便を供給する。何れにしても古來河南は天下の中心であつた丈に農産物は多い。胡麻の如きも支那第一で作付三百萬畝に達し百七十萬担を産する、湖北は之について百二十萬畝を作り、胡麻百萬担を出すといふことである。猶河南の胡麻は一名茶胡麻といつて、黒や白に比して、含油量が最も多い。毎年九月から十月に出廻はつて、周家口から漯河其他に集り、漢口に仕向けると同時に、漯河から周家口をへて、淮水の便によつて鎮江にも送られる。